

五十鈴の風

平成19年4月発行
発行：市立伊勢総合病院

安心していただける医療を

- 院長のあいさつ・・・・・・・・・・ 緊急のお願い
- 新任医師の紹介・・・・・・・・・・ よろしく申し上げます
- 院内トピックス・・・・・・・・・・ 放射線治療の最先端技術について
- 院内各科紹介・・・・・・・・・・ 神経内科
- 健康メモ・・・・・・・・・・ 変形性膝関節症について
- 院内部署シリーズ・・・・・・・・・・ 理学療法室
- 放射線室通信・・・・・・・・・・ 胃X線検査(胃透視)について
- 栄養管理課だより・・・・・・・・・・ 「たべあわせ」について



「桜川の春」 橋上 裕氏（伊勢地区医師会カメラクラブ）撮影

市立伊勢総合病院
の 基 本 理 念

患者様の立場より
病院機能の立場より
地域医療の立場より

愛情と責任を持ち、安全で安心していただける医療
良質かつ高度の医療
円滑かつ密な機能分担、合理的かつ効率的な医療



緊急のお願い

院長 世古口 務

最近の新聞、テレビなどの報道ですでにご承知と思われますが、勤務医不足が大きな社会問題となっております。われわれの市立伊勢総合病院におきましても、この1年の間に医師の転勤、退職、開業により、病院に勤務する医師が大変不足しておりますが、これに対する医師の補充がありません（全国的な傾向ではありますが）。

このような、病院に勤務する医師不足のため、これまでと同じような医療を実施していくことが、今は大変困難となってまいりました。われわれの病院は本来、緊急な検査、治療や入院の必要な患者さんへの対応を行う二次救急病院であります。近年の傾向として、地域の医療機関で十分対応できるような、比較的軽症な患者さん（一次救急）が直接病院を受診されるケースが増加しております。このため、緊急の検査、治療が必要な重症患者さんへの迅速な対応ができなかったり、深刻な医師不足のなか、医師への負担が増加し、救急医療体制のみならず、通常の診療にも支障をきたしている今日であります。このため、4月1日より非当番日の救急診療は基本的には行いませんのでご了承ください。まずはかかりつけ医、休日夜間応急診療所を受診していただきますようお願いいたします。

また、初めて病院を受診していただく場合にも、基本的に地域の医療機関からの紹介状を持参していただきますようお願いいたします。当院での検査、治療をお受けになり、治療方針が決定されれば、地域の医療機関で治療を受けていただく、病診連携（病院と地域の医療機関との連携）を推進しておりますのでご理解頂きたいと思っております。

いずれにいたしましても、安全で安心していただける地域医療を維持していくためには、病院に勤務する医師が労働過重にて疲労困憊し、病院を去っていくことを防止する必要があります。そのためには、地域の人々のご理解とご協力が必要ですので、よろしくお願いいたします。

新任医師の紹介



矢田隆志（内科）

出身地：四日市市
出身大学：三重大学
前任地：三重県立総合医療センター
特技/趣味：多少英会話
クラシック音楽鑑賞

長所/短所：長所がどうかわかりませんが、粘り強く、寛容性はある方？短所は取捨選択ができない、物をため込む癖

一言：1983年に三重大学卒業後すぐ当院で2年間研修をしました。その後三重大学第一内科、清澄病院、虎の門病院、松阪済生会病院、県立総合医療センターと勤務しました。22年ぶりに当院赴任となり、ふる里へ帰ったような懐かしさや温かさに触れ、非常に感慨深いものがあります。微力ですが、何か返しができればと考えています。



杉浦謙介（形成外科）

出身地：名古屋市
出身大学：愛知医科大学
前任地：藤田保健衛生大学
特技/趣味：ギター

長所/短所：特に無し

一言：今年4月より形成外科に赴任いたしました。地域の医療に貢献できるようがんばりたいと思います。よろしくお願い致します。



里中東彦（整形外科）

出身地：志摩市
出身大学：三重大学
前任地：三重大学大学院
特技/趣味：ラグビー、読書
フライフィッシング

長所/短所：笑顔

一言：地元出身者として地域医療に少しでも貢献できるよう頑張りますので、よろしくお願い致します。

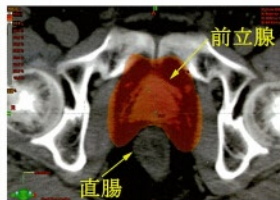
院内トピックス

放射線治療の最先端技術 — 強度変調照射について —

直線加速器（ライナック）を用いた放射線治療の最先端技術に強度変調照射（IMRT）があり、高度先進医療として国内の少施設で行われています。

IMRTでは正常組織への被曝を減らして副作用を低下させると同時に、より多くの放射線が病巣に集中可能となるため治療率向上が期待されています。緻密な理論に基づいた理想的な放射線治療ですが、国内では治療開始からの歴史が浅いため長期の治療成績や副作用の発生率の評価が十分でなく、現状では治療自体が臨床試験の意味も兼ねています。治療対象は前立腺癌、頭頸部腫瘍が良い適応となりますが、最近では脳、乳腺、肺などにまで臨床試験が拡大されています。

当院でも準備が整い次第、県内初となるIMRTの運用を開始します。前立腺癌から治療を行う予定で、順次適応疾患を拡大したいと考えています。特殊治療のため準備や治療時間が長くなり患者様の



ご協力も必要になります。また新しい治療技術のため高い治療効果が期待される反面予想外の副作用が発生する恐れもあり、治療を希望される患者様にはIMRTの利点および欠点を十分にご理解頂く必要があります。ご不明な点がございましたら、放射線科医師 笹岡、二見までお問い合わせ下さい。

図：前立腺癌の例。直腸を避けて、前立腺及びその周囲に放射線を集中させます。

院内各科紹介 神経内科



当科は現在常勤医2名と非常勤医2名の計4名で外来、入院の診療に当たっています。外来は看護師、助手スタッフ3名とともに診察しています。入院治療が要すれば、3階救急病棟、集中治療病棟、および4階西病棟、1病棟を中心に入院していただいています。神経内科は脳、脊髄、末梢神経、筋肉にわたる広い領域の病気を診る科です。例えば麻痺（まひ）；動かそうと思っても手足や口の動きが悪い、しびれ；普通では感じない

感覚がある、また、しゃべりにくさ、歩きにくさ、物忘れといった症状がどのような原因から生じるのか、飲み薬や点滴で治療する病気がを診ています。血液尿検査やレントゲン写真、CT、MR I、超音波検査、脳波や神経電気検査などを行い、総合的に診断治療を考えています。昨今の栄養過多や高齢化に伴い、高血圧、糖尿病、高脂血症、骨粗鬆症などの成人病の方が増加しており、脳梗塞や変形性脊椎症に伴う神経障害など、たくさん受診されています。肩こりや天気天候に影響される頭痛やめまいといった症状の方も多いためです。早期発見、早期対処の観点から急な症状の変化、長く続く症状がありましたら、一度外来受診を検討されてはいかがでしょうか。



加速度的に迎いつつある高齢化社会において、加齢性変化を基盤とした疾患が確実に増加しています。整形外科疾患においても、関節の消耗、変形に伴う歩行時の痛み、とりわけ膝における変形性膝関節症が増加してきており、60歳以上では人口の80%以上に何らかのレントゲン的变化が出現しているともいわれています。加齢に伴い、関節軟骨は弾力性を失い、使いすぎることですり減って、膝周辺に様々な症状を呈するようになってきます。初期では、立ち上がりの痛みや歩き始めの痛みだけであることが多いのですが、次第に関節痛や関節の中に水がたまるような状態が持続し、膝の動きは制限されて、歩行が困難となってきます。

治療法として、消耗した軟骨や関節を修復させる治療法は現在のところ確立されていません。このため、症状を改善させるために、湿布や軟膏などの外用薬、消炎鎮痛剤の内服、ヒアルロン酸の関節内注射、リハビリテーションが保存的治療として行われます。しかしながら、このような保存的治療をおこなっても、関節の痛みが強くなり、立ちあがりや歩行など日常生活が困難となってくるような場合には、人工膝関節置換術などの手術治療を行います。人工膝関節置換術は、変形した関節を切除し下肢のアライメントを矯正して、金属で作られた人工膝をはめ込むことで、膝関節の痛みをとる手術です。人工関節の構造上、膝関節の曲がりや100度くらいまで、あぐらの姿勢や正座をすることは困難となりますが、歩行時の痛みが軽減し、生活の質の向上が期待できる手術です。1ヶ月程度の入院治療期間も必要としますが、膝の強い痛みで悩まれている方は一度ご相談ください。

(整形外科副医長 新谷 健)

院内部署シリーズ

今回は **理学療法室** です。



理学療法とは、疾病（主として脳卒中、パーキンソン病、糖尿病、慢性閉塞性肺疾患など）・外傷（骨折、脱臼、脊髄損傷など）・寝たきりなどによって身体が不自由となった人々に対し、QOL（質的生活）の向上を目的とし、身体と心の両面から機能回復・維持をはかる医療の一分野です。

実際には各個人の状態を調べて身体機能・心理面・リスクをつかみ、適切な治療方法・目標を設定後、治療を進めていきます。

当院の理学療法室では、理学療法士4名（山本、古川、柴田、高見）、准看護師1名、看護補助者1名の計6名が、主治医の指示の下、言語聴覚士・病棟看護師などのスタッフと共に

障害をもつ方々の社会復帰の手助けをさせていただいております。

(理学療法士 山本良次)

胃透視は、バリウムを飲んで食道・胃や十二指腸の腫瘍(ガン)や潰瘍、ポリープなどを発見する検査です。放射線室では、安心、安全かつ精度の高い検査を、いかに効率よく患者さんに提供することができるかを課題とし取り組んでいます。胃ガンを早期発見するためには、できれば1年に1回、胃透視あるいは胃カメラの検査を受けることをお勧めします。

胃X線検査は、患者さんとの共同作業です。患者さんがこの検査を受けようという積極的な気持ちになってくれることで、質の良い精度の高い画像を得ることができ早期の病気を発見しやすくなります。必ず守って頂きたいことは検査前日(夕食)からの食事制限です。胃の中に食べ物が残っていると、それが妨げとなり胃の中が見えなくなってしまいます。正確に診断できなかったり、誤診をまねく恐れがあります。必ず守って下さい。より良い検査を行うためにご理解とご協力をお願いします。

放射線室担当技師一同、安心な検査を心がけて、救命しうる早期胃ガンの発見に努めます。



栄養管理課だより

「たべあわせ」 について



「たべあわせ」は、江戸時代の貝原益軒の「養生訓」にもあるとおり、同食すると良くないものがあるという教訓からきていますが、必ずしも悪い面ばかりでなく、よい面も明らかになったものもあります。そこで、今回は、「たべあわせ」について考えてみることにします。

●「うなぎと梅干」

- うなぎを毎日食べるとビタミンA過剰症になる。

【教訓】食がすすんで食べ過ぎに注意せよ！

●「ごはんに納豆」

- 白米中に不足するリジン(必須アミノ酸)は大豆をとることで補える。
- ミネラルやビタミンB₂、K、食物繊維が含まれている。

【注意】抗血栓薬(ワーファリン)を飲んでいる人は納豆を食べてはいけません。

●「どじょうとごぼう」

- カルシウム、鉄、リン、ビタミンB₂が豊富であるが、泥臭いのが欠点。

【プラス効果】皮つきごぼうをささがきに入れてと泥臭さを消してくれる。

他にも「小豆とかぼちゃ」「焼き魚に大根おろし」などがあり、その理由を探ってみるのも面白いと思います。